



風評被害を
吹き飛ばせ！

こ が
古河

「産地は今、風評被害と闘っています・・・」
販売されている野菜はすべて安全・安心です！
風評被害に惑わされず、適正な判断をお願いします。

目次

- 2 古河市総合計画
- 4 消費者月間
- 6 介護予防チェック
- 8 自主防災会
- 9 遠きにおいて

5 MAY

2011

第1次古河市総合計画後期計画を策定しました



本市は、第1次古河市総合計画(計画期間：平成19年度～28年度)の後半部分となる後期計画を策定しました。

これは、総合計画の基本構想に定めている、目指すべき将来都市像「風格と希望に満ちたいきいき古河」を実現するための、具体的な施策や方針を盛り込んだ市政全般にわたる計画です。

第1次総合計画と、今回策定した後期計画についてご紹介します。

【問】 総和庁舎(本庁)企画課
☎92-3111

■基本構想

(計画期間：平成19年度～28年度)10年間

本市が抱える課題や広域的な動向、地域の特性、市民の期待などを踏まえつつ、これから本市が進むべき姿を明らかにするとともに、その実現のための施策の大綱を定めたものです。

■基本計画

(計画期間：平成23年度～28年度)6年間

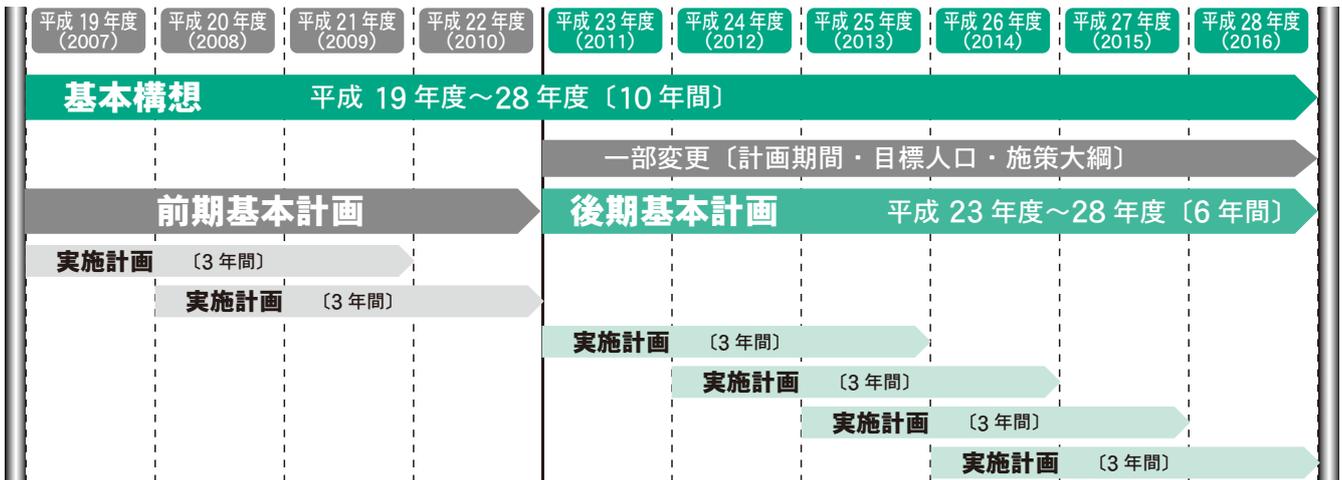
基本構想を実現するための分野別の主要な施策を示すものです。後期基本計画では、平成19年度を初年度として策定した前期基本計画の取組状況を踏まえて、後期の6年間(平成23年度～28年度)で目指す基本

的方向や、本市の特性を生かした分野別の施策により、効果的な計画を展開していきます。

■実施計画

(計画期間：平成23年度～)

基本計画で定めた施策を具体的に実施していくための計画であり、3カ年を計画期間とし、ローリング方式により毎年必要な調整や見直しを行います。



後期計画の主な施策

◇後期計画の主な施策の一部を紹介します。

コミュニティ・行政

第1章 市民主体の行政と みんなで作る “地域” づくり

- 自治組織の活性化
- 効果的な財政運営
- 公共施設の適正配置



福祉健康

第2章 互いに支え合う 福祉と健康の “社会” づくり

- 保育施設の充実
- 介護サービスの充実
- 小児医療の充実



教育文化

第3章 健やかな市民と 文化を育む “人” づくり

- 高等教育の充実
- 学校給食センターの
整備・推進
- 総合的文化施設の整備



産業労働

第4章 活力と元気にあふれた 人の集まる “魅力” づくり

- 古河名崎工業団地への
企業進出と関連企業等
の誘致
- 道の駅の整備・運営
- 市内回遊の魅力づくり



生活環境

第5章 自然と共生した安全で 快適な “暮らし” づくり

- 安全で安定した水供給
- 環境美化の推進
- 防災体制の強化



都市基盤

第6章 みらいを見据えた 都市の “基盤” づくり

- 幹線道路ネットワーク
の充実
- 都市軸上の地域拠点をつなぐ公共交通の運行
- 宇都宮線の新駅設置を含めた鉄道の充実



守ろうよ、みんなを！

～5月は消費者月間です～



計量法に基づき商品の適切な表示・計量をチェックしています

皆さんは消費者問題と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。そもそも「消費者」とは誰のことでしょうか。「消費者」とは、簡単にいうと「お金を払い何かを買った人」です。

そう考えると誰もが消費者です。消費者問題は商品を買ったときや契約したときに起こるトラブル、商品を買ったあとに起きた製品事故など身近なものが多くあります。

また、インターネットによる架空請求、高齢者を狙う悪質商法、他にも多重債務問題なども消費者問題になります。

【問】 総和庁舎(本庁)
商工政策課 ☎92-3111

■消費者行政

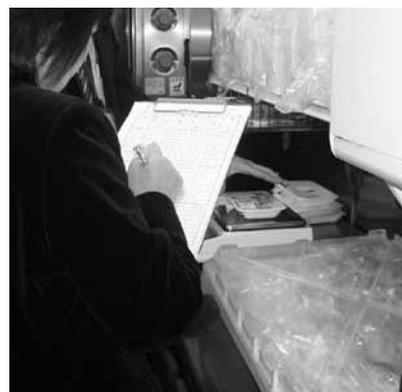
消費者問題を解決するためには、法律の助けが必要になることもあります。しかし、法律には専門用語も多く、それを使って問題を解決していくのは大変です。

こういった問題について解決のお手伝いをしますというのが「消費者行政」です。市での消費者行政の担当は商工政策課消費対策係になります。

商工政策課消費対策係には消費生活センターも配備されています。皆さんからの消費者問題の相談を毎日行っています。また、市内の販売業者の商品に適切な表示がされているか、きち

んと計量されているかなども検査しています。

消費者の安全は、こうした行政の取り組みと消費者である皆さんが正しい判断をすることによって守られています。



商工政策課消費対策係が販売店で立ち入り検査を行っています

■古河市消費生活センター

古河市消費生活センターには年間700件以上の相談が寄せられています。

最近の相談は震災に関する内容が目立ちます。大規模な地震の後には、災害時の混乱や被災者を支援したいという気持ちにつけこんだ悪質な便乗商法が横行します。

過去の震災での事例を紹介しますので、手口を知り、被害に遭わないようにしましょう。

- 公的機関を思わせる名称で「家屋の耐震診断をします」というチラシ広告を配布して勧誘し、高額な契約をさせる。
- 「家屋の補修費や当面の生活費などを貸し出すので返済保証金を入金してくれ」と保証金名目で入金させるが、貸し出しは実行されない。
- 公的機関を思わせる名称を用いて、自宅を訪問したり、はがきを送ったりして義援金名目のお金を求める。

頼んでもいないのに押し付けてきて、しつこく勧誘する業者には特に気を付けましょう。公的な制度については、業者の説明をうのみにせず、必ず自治体に確認しましょう。その場ですぐに契約をしてはいけません。

被害に遭いそうになった時、被害に遭ってしまった時はすぐに消費生活センターにご相談ください。

報道や行政機関の信頼できる情報で判断し、行動できる消費者になりましょう。



◆古河市消費生活センター

【場所】

総和庁舎2階商工政策課内

【相談日】

月曜日～金曜日

【相談時間】

午前9時～正午

午後1時～4時

☎92-8811

■消費者問題に対し啓発活動を実施

市にはくらしの問題に取り組んでいる消費者団体があります。現在4つの団体が古河市消費者団体連絡協議会という組織を作り、市と共同してさまざまな活動をしています。



▲悪質商法防止の街頭キャンペーンも行っています

【消費者の利益を守るため活動しています】

古河市消費者団体連絡協議会ができてから、各くらしの会の役員さんたちが年に何度か集まり、みんなでこんなことをやっていきたいと思いますと話合って行事を行ってきました。

また、それぞれの団体では今までどおり、より賢い消費者になるようなイベントや勉強会などを実施しています。

活動のひとつとして、今回の東日本大震災で被害を受けた避難住民の皆さんへの支援なども行いました。



古河市消費者団体連絡協議会会長
森川玲子さん

はじめましょう！ 毎日の介護予防

～いつまでも、元気で暮らすために～



■ 要介護の原因は 脳血管疾患が第1位

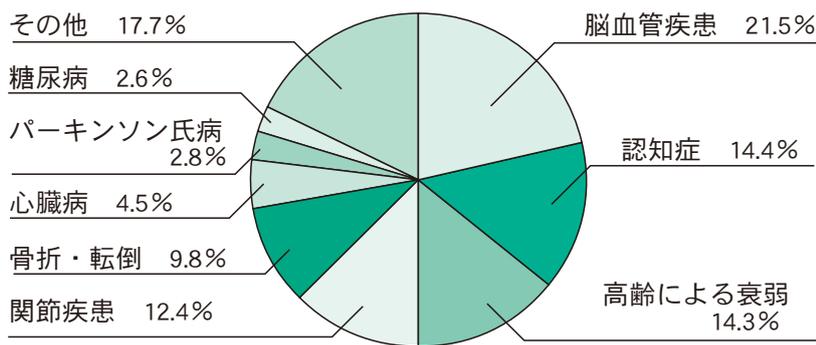
介護が必要となる原因には、脳血管疾患などの生活習慣病のほかに、認知症や高齢による衰弱・関節疾患・転倒・骨折などがあります。

これらは加齢に伴う老化も

一つの原因ですが、生活習慣によって老化のスピードを遅らせたり、低下した機能を向上させることができます。

心身の機能は使わなければ低下するばかりです。日々の生活を活発にする事がいつまでも元気に暮らす第一歩です。

〔高齢者の介護が必要となった原因〕



(厚生労働省「国民生活基礎調査」平成19年)



高齢期はささいなことがきっかけで、体調を崩していくことがあります。「自分はまだ元気だから介護予防なんて関係ない」と思うかもしれませんが、いつまでも健康に、自分らしく過ごすためには、元気なうちから予防する事が大切です。



■ 介護予防のためには

1. 運動…運動習慣を身につけ筋力の低下を防ぎましょう！
2. 栄養…バランスのよい食事で健康な体を保ちましょう！
3. 口腔ケア…しっかり栄養を取るためにはお口の健康も大切です！
4. うつ・閉じこもり・認知症予防…うつ病や閉じこもり、認知症を予防し、活発な生活を送るためには地域の活動やボランティア活動、趣味の活動や市などで実施している教室には積極的に参加しましょう！

あなたは大丈夫ですか？
やってみましょう！
介護予防チェック！

No.	生活機能チェックリスト(質問項目)	該当する回答に○をつけてください	
1	バスや電車で一人で外出していますか	0. はい	1. いいえ
2	日用品の買物をしていますか	0. はい	1. いいえ
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ
8	15分ぐらい続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ
9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ
11	6カ月で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ
12	BMI [体重(kg) ÷身長(m) ÷身長(m)]が18.5未満である	1. はい	0. いいえ
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ
16	週に1回以上は外出していますか	0. はい	1. いいえ
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	1. はい	0. いいえ
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ
21	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ
22	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ
23	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい	0. いいえ
24	(ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ
25	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ

チェックをつけて、緑色の方に該当する項目が多い人は、生活機能が低下している恐れがあります。生活習慣を見直し介護予防に取り組みましょう！市で実施している介護予防事業などへの参加がおすすめです。詳しくはお問い合わせください。

【問】 総和福祉センター「健康の駅」内 高齢福祉課 ☎92-5838

自主防災会をご存じですか？

～自分たちのまちは、自分たちで守ろう！～



自分の身は自分で守る「自助」が基本ですが、今回の東日本大震災のような大規模な災害が発生した場合には被害を軽減するためには、地域で互いに助け合う「共助」がとても大切、かつ有効です。その代表ともいえるのが、自主防災会です。

【問】 総和庁舎(本庁)
消防防災課 ☎92-3111

■自主防災会とは

自主防災会とは、行政区、自治会、町内会等を単位とした地域住民が、自主的に防災活動をする組織のことで、

平成23年4月1日現在で、古河地区80、総和地区19、三和地区26の計125の自主防災会が結成されており、組織率は55.3%です。

市では、自主防災会の推進を図るとともに、結成や資機材の整備等に支援や助成を行っています。



■主な活動内容

自主防災会の主な活動は次のとおりです。

- ・地域防災訓練の参加
- ・水消火器や粉末消火器等を使用した自主防災訓練
- ・AEDを使用した普通救命講習(3時間)
- ・市バスを利用した各地防災館の防災体験研修
- ・防災マップや防災カルテの定期的な見直し
- ・避難場所や避難ルートの確認
- ・防災倉庫内の資機材等の点検
- ・備蓄品の購入

※あくまでも各自主防災会の自主的な活動を尊重します。

■補助金の交付

結成年度は結成事業費として10万円、資機材等整備事業費として、対象経費の1/2以内の額(限度額40万円)を交付します。結成事業費は普及啓発の資料や防災マップの作成等に、資機材等整備事業費は資機材や備蓄品の購入等に充てていただきます。

結成翌年度からは運営事業費として、対象経費の1/2以内の額(限度額3万円)を交付します。



▲整備した資機材等



▶『メイちゃんの執事』では柴田剣人に扮し舞台を熱演しました(宝塚バウホール)©宝塚歌劇団



宝塚歌劇団・星組に所属しております美弥りかでございます。幼少の時、父の出身地である古河に移り、幼稚園、小中学校と通いました。子どものころ、家族と総合公園やネーブルパークで遊んだこと、お祭りや花火大会等が今では楽しい思い出です。

私が宝塚を目指したきっかけは、小学校3年生の時、テレビで初めて見た宝塚の華やかさと、男役の格好良さに衝撃を受けたことです。その瞬間から、一気に私の夢は宝塚の舞台に立つことになりました。その後は宝塚受験に向けクラシックバレエを習い始め、バレエの素晴らしさも知り、群馬県太田市まで毎日、稽古に通いました。そして高校在学中、憧れの宝塚音楽学校に合格することができ、兵庫県宝塚市で夢への第一歩を踏み出しました。宝塚は元々温泉地で山水の景色と現代的な建物が調和する素敵な歌劇の街です。2年間の音楽学校を経て、男役として9年目を迎え、本拠地宝塚の他、東京や全国各地での公演に出演したり、テレビのお仕事もさせていただいたり充実した日々を送っています。現在、宝塚大劇場公演「ノバ・ボサ・ノバ」 「めぐり会いは再び」に出演中です。同公演は6月3日～7月3日まで東京宝塚劇場(日比谷)でも上演します。古河の皆さまにも各劇場に足をお運びいただき、宝塚に興味を持っていただけましたら幸いに存じます。

古河には年に数回帰ります。寺社や公園を散策したり、土手からの美しい夕日を眺めますと、とても癒され、心も体もリフレッシュできます。歴史と自然豊かな古河を誇りに思い、ますますの発展を願っています。



3月に起きました東日本大震災では今も大変な思いをされている方が多くいらっしゃると思います。私も微力ながら支援活動をさせていただくとともに、舞台から皆さまへ愛と希望をお届できますよう、これからも精進してまいります。

宝塚歌劇団 星組
美弥りかさん
©宝塚歌劇団

大和田磐戸神楽

4月4日、鷲神社(大和田)で茨城県指定無形民俗文化財の磐戸神楽が奉納されました。

この神楽は、埼玉県久喜市鷲宮神社に伝わる神楽を、江戸時代に、大和田村名主が中心となり、近在近郷の神官が修得・奉納したのが始まりです。現在は保存会が結成され、後継者の育成に努めながら、毎年4月4日に奉納しています。

日本に古くから伝わる神話を十二の演目で表現し、五穀豊穡・家内安全を祈願する舞が演じられました。



▲今回の奉納によりいただいた浄財等は震災の義援金として寄付されました

新しい「ぐるりん号」がお目見えしました

4月1日から車のボディに市の花である「ハナモモ」をペイントした「ぐるりん号」が運行を始めました。新しい「ぐるりん号」は東コース・西コースをめぐるコースを運行し、お年寄りや小さなお子さん、体の不自由な人にも配慮され、乗り降りがしやすく改良されていて、車イスのまま乗車もできるノンステップバスです。

早速、乗車した市民からは、「乗り降りがしやすくなってますます利用しやすくなった」との声も聞かれました。



▲新しいバスはアイドリングストップ機能など環境にも配慮しています

たくさんの善意をいただきました

市では、市民の皆さまに東日本大震災により被災された方に対して、義援金や支援物資などをお願いしましたところたくさんの善意をいただきました。義援金については、日本赤十字社古河市地区へ約880万円(3月31日現在)。支援物資については、毛布930枚、米4,700kg、水2ℓ入りペットボトル2,200本等をいただき、被災地に搬送させていただきます。なお、支援物資については、多くのご協力をいただいたため、3月31日をもって休止とさせていただきます。



▲皆さんから寄せられた善意が被災地へと届けられました

副市長就任



りくかわかつみ
陸川克己 副市長

うししまさぎみ
牛島授公副市長の退任に伴い、平成23年4月より、副市長に、陸川克己氏が就任しました。

【職歴】

自治省、青森県、公営企業金融公庫、総務省、福島県いわき市、地方公共団体金融機構



▲たくさんの支援物資は大型のトラックで運びだしました

花桃が咲きそろった春の“古河”

震災の影響により「古河桃まつり」は中止となりましたが、古河総合公園では、今年も見事な花桃が咲き、市内外から訪れたたくさんの人の目を楽しませました。

公園内は、家族連れなどが、花桃の下にシートを広げたり、カメラを片手に園内を散策したりするなど、それぞれの楽しみ方で、色鮮やかなピンクの花の中、「古河の春」を満喫していました。



▲きれいに咲いた花桃をみんなが楽しみました



▲小さいお子さんもピンクの花桃を見て思わず手を伸ばします

日々新たなり

古河市長 白戸仲久

～ 東日本大震災 ～

東日本大震災につきまして、マグニチュード9.0とかつて例を見ない規模の巨大地震による津波の影響で、東北地方を中心に数多くの尊い命が失われましたことに、心より哀悼の意を表します。また、被災されました皆様に対し、謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被災地の復興をご祈念いたします。

さて、震災直後に実施しました被害状況の情報収集や、ライフライン確保等の古河市の対応については、広報4月号の特集で取り上げました。今回は、震災から得た教訓について取り上げたいと思います。

今回の地震は、今後の古河市における災害対策上の貴重な教訓をもたらしました。携帯電話や一般の電話は災害時には、まったくつながらないこと。一方で、庁内で使用している庁舎電話は通話が可能だったこと。市民の皆様への情報提供の重要性の認識。被害状況把握の方法の再検討等。これまでの災害に対する想定や対処基準を見直す必要も出てまいりました。

また、急速に普及しているインターネットや携帯電話の活用等、より効果的な通信手

段の活用も考える必要がでてまいりました。一方でそうした通信手段を持たない高齢者等の情報弱者といわれる方々に対してどのように、正確な情報をお届けしたらよいのかも、早急の課題です。これらに対し、全庁を挙げて見直しを図り、新たな対策を取り入れてまいります。

なお、この度の震災におきましては被災地支援ということで、市民の方々や企業、各種団体から多額の義援金や支援物資のご提供を頂きました。さらに、被災者の方々の避難所として、古河市では、「とねミドリ館」を提供いたしました。市内の各種団体の皆様方には、連日、輪番制で食事の支援等のボランティアとして協力を頂きました。市民の皆様方の心温まるご支援に対しまして、改めて感謝申し上げます。



My Hobby

魅力がいっぱい「バス釣り」 山関 豊さん（山田）

ルアー釣りは考える釣りと言われています。釣れない時間があるから釣りは楽しいのですが、より釣れるために…釣れる場所を探して移動して…バスの居場所を見つけ出す。自分の頭でいろいろ考えて、移動したり釣り方を変えてみたり…湖上に出てボートでなんてことも…同じ池でもブラックバスが集まる場所を予想したり、活性の高い場所を見つけたり…。そんな釣りの魅力を山関さんに伺いました。

楽しみとの出会い

15年ほど前、以前の勤務先で同僚に誘われ溪流釣りに行ったのがきっかけ。しかし、禁漁期間があるので、その期間をどうしようか？と思った時にテレビで軽々と釣り上げる「バス釣り」を見て、「これは楽しそう」と簡単な気持ちで始めたそうです。しかし、見るとやるとでは大違い、貴重な休みを使って、毎週釣りに行くのですが、半年間何も釣れない。それでも、すぐにあきらめないのが山関さん。それならば自らアクションを起こし、場所、投げるルアー、試行錯誤を重ねていくとそれ自体が楽しみとなり、また成果が少しずつあがると、全てが楽しみになっていました。

▶「ボートを使ってバス釣りも最高です」と笑顔の山関さん（左）



▲「釣りはじっと待っているだけではないので退屈ではないですよ」と話す山関さん

努力を重ねていくことも魅力

投げて、巻いて、の繰り返しですが、普段触ることのできない魚を釣って自分の手で触れるのは最高の気分だという山関さん。竿にあたりが来た時、魚がかかった瞬間、その緊張感がたまらないのだそうです。こうすれば釣れるかな？と考えながら努力を重ねる日々。忙しい理容業の仕事の張り合いにもなっているそうで、小さいお子さんがいる今では、家族サービスと上手く調整しながら時間を作って出かけています。今まで釣ったバスの大きさの最高は49.5cmで、誰もが憧れる50cmの壁を超えるのが最大の目標。釣り道具のコレクションも楽しみで、自分で作ったり、工夫したりして集めています。

これからも楽しみが満載です

近い将来、お子さんと釣りに行くのを楽しみにしているそうで、自然に触れながら一緒に遊ぶ時間を楽しみたいと考えています。また、釣りは人数の多さにかかわらずコミュニケーションが図れるので話題が多くなり、友達も増え、これも大きな財産になっています。「ここにいるかも」とバスを探していくのは本当に楽しみで、子ども心に帰れる至福の時間。「魚が釣れるのは本当に楽しいですよ。」とこれからの釣りに最適な季節（5月～6月）が待ち遠しいと最後まで笑顔で熱く語ってくれた山関さんでした。

パークライフ 古河公方にまつわる天神松と胞衣松 《古河総合公園》

古河総合公園は、古河公方ゆかりの地にあります。そして公園のデザインにも、古河公方にまつわる伝承が生かされています。今回は、その一つである天神松と胞衣松をご紹介します。

1582年、古河公方五代目の足利義氏が古河城で亡くなり、あとには9歳の氏女ひとりが残されました。同じころ、豊臣秀吉によって全国統一が成し遂げられます。のちに秀吉は、氏女を古河公方の分家(喜連川家)である足利国朝に嫁がせ、鴻巣御所(現：公方様の森)に移します。しかし国朝はまもなく亡くなり、氏女は弟の頼氏とめあわされ、二人の間に義親が生まれることとなります。氏女は足利の血を継ぐ男子誕生を喜び、御所の西北の地に天神のほこらをたて、南側に胞衣(胎盤)を埋め、それぞれに松の木を植えました。人々はこれを天神松、胞衣松と呼びました。



▲ふるさとの記憶に思いをはせてみませんか(写真は天神松)

それから30年ほど経って氏女の孫の尊信が喜連川に移り鴻巣御所は廃止となりますが、その後も2本の松は大切にされたようです。このことは、さらに200年後に鷹見泉石が作った鴻巣村絵図の御所跡に天神松と胞衣松が描かれていることでも分かります。鴻巣の人たちは、古河公方の子孫が古河を去った後も、2本の松を大切に守り続けていたのでしょう。

古河総合公園づくりが始まった1972年には、2本の松はありませんでしたが、1996年の天神橋の建設の際に、橋の両脇に2本の赤松が植えられ、天神松と胞衣松はよみがえりました。

【問】古河総合公園管理棟

☎47-1129 ☎48-5685

✉sougou-park@koga-kousya.or.jp

🌐http://www.koga-kousya.or.jp/koga-park/

文化財の窓 地侍「図書助」と号す～布施尊景官途状～

「赤井御門守」・「杉平榎目正」といえば落語世界を代表する殿様ですが、もちろん実在人物(御門守・榎目正の官職名も)ではありません。

ところで「〇〇守」は律令制の国司(地方官)の受領名、「〇〇正」は二官八省一台五衛府(中央省庁)の官途名(四等官)を意味しますが、戦国時代には既に実体の伴わないものとなっていました。しかし武士たちはなお、自己支配の正当性と身分秩序の拠り所として重視したため、朝廷の正式な任官を経ていない自称(僭称)や、主君が家臣に恩賞として与えるケースが増加します。そして、この際に用いられた文書を官途状(官途書出)と呼びます。

今回紹介するのは天正8年(1580)年3月、北条氏照(戦国大名小田原北条氏の一族)の家臣布施美作守尊景が仁連の地侍鈴木金盛に宛てた官途状です。この時期の古河地域に注目すると、古河公方家(5代足利義氏)と関宿築田氏を抑えた北

条氏が北関東への攻勢をさらに強め、結城氏・山川氏・多賀谷氏などの近隣諸氏と激しい攻防を繰り返していました。しかし、北条氏の攻勢は、逆に対立関係にあった近隣諸氏の団結を強める結果となり、戦況は互角でした。そのため攻防の接点にあたる三和地区に住する地侍たちは自家存続を掛け、どの陣営に味方するか難しい判断を迫られました。一方、北条氏側も結城・山川氏側も有力地侍を自陣に従わせるため苦心しますが、その懐柔策の一つが「官途受領名」の授受といえます。

今回紹介した官途状の内容は、鈴木氏が官途を名乗ってもよい時分なので

「図書助」の官途名を与えるというものです。布施は、北条氏の拠点の一つである栗橋城代を務めており、鈴木氏が北条氏側に属していたことがわかります。この約2カ月後には多賀谷氏の軍勢が仁連・柳橋などに打ち寄せましたが、大和田村の者たちの活躍によって撃退されました。(三和資料館)



▲布施尊景官途状

震災を経て ―古河市の博物館施設の被害状況―

3月11日の東北地方太平洋沖地震から約2カ月が経過しました。

各地に大きな爪痕を残したこの東日本大震災、文化庁公認の展示施設「公開承認施設」である古河歴史博物館では、幸いにも国指定重要文化財をはじめとする資料群に損傷はありませんでした。

しかし、鷹見泉石記念館や奥原晴湖画室などの石灯籠が倒壊、博物館駐車場のブロック塀が崩れ落ちるなど、いくつかの被害が確認されています。また、篆刻美術館と永井路子旧宅では瓦屋根の棟が崩れ、しばらくの休館を余儀なくされました。

写真は地震直後に撮影した石灯籠の様子です。鷹見泉石記念館の石灯籠は4基あるうち2基が、奥原晴湖画室は2基とも倒れて損傷しました。ちなみに、鷹見泉石記念館の無傷だった灯籠のひとつは、かつて古河城の二ノ丸御殿庭園内にあった、「濡鷺」という銘の格調高い石灯籠。この度の震災でも崩れることなく、威厳ある姿でどっしりと佇んでいます。歴史の洗礼をうけて残り続ける文化財の底力を感じさせる逸品といえるでしょう。

新緑の美しい季節となりました。「濡鷺」の見守る鷹見泉石記念館、そして奥原晴湖画室では、恒例の五月飾りをしています。展覧会をご覧がてら、どうぞお立ち寄りください。

■古河歴史博物館テーマ展

「絵地図―鷹見泉石の収集した最高機密―」6月23日(木)まで



▲地震直後の奥原晴湖画室石灯籠



◀鷹見泉石記念館「濡鷺」

開館時間

午前9時から午後5時
(入館は4時30分まで)

【問】

古河歴史博物館 ☎22-5211

図書館おすすめの図書

◇一般書

・月の街山の街

イチョルファン 著
草薙 剛 訳

舗装されていない丘の斜面に密集する、「月の街」「山の街」と呼ばれる貧しい住宅地。そこに住む、何も持っていないくても力強い愛に溢れた人々の姿を描く。実話をベースにした、温かく味わい深い物語集。

出版社…ワニブックス
分類…929イ



◇一般書

・ベターホームの朝ごはん

ベターホーム協会 編集



ちょっとだけ早起きして、ささっと作る。これが朝ごはん習慣をつけるコツ。すぐに食べられるかんたん食材を使った、シンプルな朝食レシピを、紹介します。

出版社…ベターホーム出版局
分類…596ベ

(中央公民館)

健康情報局

働きながら子どもを育てる

2005年の国勢調査によると、「全夫婦数のうち、夫と妻ともに就業している夫婦が半数近くになっている。」という結果が出ています。

お子さんがいる共働きのご夫婦は「子どもを預けて働くのはかわいそうかな？」という思いをもたれることもあるのではないのでしょうか。子どもが小さいうちは一緒にいる時間を通して愛情をたくさん注ぎたいという気持ちもある反面、働くという選択をされている人もいることと思います。

しかし、お子さんと一緒に居る時間の長さよりも、向き合っているかどうかの方が大切です。家の中の生活だとテレビを見て一日中過ごしたり、おもちゃやゲームで一人遊びが多くなることもあるかもしれません。幼稚園や保育園などの集団生活に入ると、友達や先生とたくさん遊んで、夕方からはお母さんとの密度の濃い時間を過ごすことでメリハリができ、子どもの発育・発達にもつながります。

幼稚園や保育園などにお子さんを預けるということは、集団行動や友達を思いやる行動が取れるようになったり、着替えや、トイレトレーニング、箸や

はさみの持ち方など、本来ならば家で親が教えなければならぬことを身につける手助けをしてくれるなど、良い点がたくさんあります。

お母さんの方はどうでしょうか？ 仕事を通して社会に参加することで、家庭の中だけでは築きにくい人間関係を広げたり、一人の女性として自分の時間を充実させたり、生活力を身につけることができたり……お母さんが働くということはプラスの要素ももたらしてくれていると思います。

子どもは、成長していくにつれ、友達も増え、自分の居場所を家庭の中だけではなく、外の世界で見つけていきます。

それとともにお母さんのお世話の手も徐々に離れていくでしょう。その時期を周囲の人に協力してもらいながら、お子さんの成長に関わっていくことが、子どもにとっても親にとっても良いことなのではないのでしょうか。

(健康推進課)



表紙写真

「福島第一原発事故による農産物風評被害」により茨城県産物は市場価格の低迷や買い控え等大きな打撃を受けています。これらの対策として、古河駅西口まちなか再生市民広場で、「古河市農産物応援フェア」を4月10日・17日に開催し、応援にかけつけた姉妹都市の真室川町とともに農産物の販売、義援金の協力を呼び掛けました。

寄付

市の災害復旧対策および被災者支援費として、三桜工業(株)より1,000万円、古河市医師会より100万円、日本注射針工業(株)より100万円、日本注射針工業(株)社員一同より10万4,000円の寄付。

結城信用金庫より、環境保全等を目的とした活動へ13万円の寄付。

常陽銀行古河支店より、市内の小学校児童に防犯ブザー1,350個の寄付。

人口と世帯

(4月1日現在 住民基本台帳から)
総人口 144,536人 (-183)
男 72,509人 (-81)
女 72,027人 (-102)
世帯数 54,646世帯 (+93)

() 内は前月比



みんなで健康 カルシウムたっぷり **食育レシピ**
 “簡単” おからのパウンドケーキ



(1人分)
 エネルギー=238kcal
 たんぱく質=3.8g
 脂質=12.6g
 カルシウム=32mg
 食塩相当量=0.2g

【材料8人分：型18cm×10cm1個分】

おから80g、小麦粉100g、砂糖70g、バター100g、卵2個、レーズン80g、牛乳1/4カップ、ベーキングパウダー大さじ1

作り方 ①おからはバラバラになるまでからいりし、レーズンはお湯で戻し湯切りする。②小麦粉とベーキングパウダーを合わせてふるっておく。③ボールにバターを入れ砂糖を加えて白っぽくなるまで練る。そこに溶き卵を分けて加える。④③に①のおからとレーズンを加え混ぜ、②を混ぜて牛乳を入れる。⑤型にオーブンペーパーを敷き、生地を流しいれて、170℃のオーブンで50～60分焼く。（食生活改善推進協議会）

アイドル登場

「わが家のアイドル」

大木悠羅くん
 (3歳4カ月 駒込)



体を動かして遊ぶことが大好きな悠羅くん。やんちゃな悠羅くんについていくパパ、ママ、ニイニイは大変ですが……あなたの話す言葉やしぐさで家族みんなが笑顔になります。これからも元気いっぱい強くて優しい男の子に育ててください。
 (父：龍さん・母：国江さん)

古河風土記

人知を越えた力

天津風雲右衛門の話

「あつちのほうでな、相撲取りにいつて、今日はなんて人とやんだか知んねが、まあ、負けてもらう、向この相手の人の親が見にくんで、今日は負けてもらいてえつちゅうわけで、約束でいつたんだと。ほんだけんど、取り始まつたらとても負けてらんねだつて。ほんで負けてらんねえつて、ぶん投げちやつたんで、(中略) 毒害されたつちゅんだ。」



▲天津風雲右衛門 男前です

ミをよく採つたという話を聞きます。このシジミは、相撲廃業後、銚子で網引きをしていた雲右衛門が、九十九里浜から持つてきて、長井戸沼や周辺の川に流したというのです。
 「今じゃないけど、わたしが嫁いだばかりに(中略)、田んぼに田の草とりにゆくと、みんなが休んでるとき、シジミ採りわたしら随分やつたよ。やつぱり、ほう、雲右衛門つていう人は、九十九里が浜へさ、あの毒害されて静養に行つて、んで、あつちから採つてきてここに流したんだよつて、よく年寄りたちが言つていたよ。」

公は谷貝出身の天津風雲右衛門。最高位は、弘化5年の前頭二枚目。八百長を持ちかけられたのですが、勝負人であった雲右衛門は負けることができず、毒を盛られてしまったと。
 以後、相撲を取ることができず廃業し、千葉の銚子で網引きの手伝いをしていたといわれます。
 この悲運の力士、じつはその後、新たな伝説を生み出します。このあたりでは、以前、農作業の合間に沼でシジミをよく採つたという話を聞きます。

何気ない話ではあるのだが、力そのものを持つていて、自力がそもそもおそれ多いことなのだが、そんな力ある者には、人知を越えた不思議な力も備えていたと信じられていたようです。箸ぐらいしか持つことができないう私には、とうていシジミなんぞ食べるぐらいしかできないのである。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

平成23年5月1日発行
 ●発行所/〒30610291 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 02800-3111
 ●編集/編集部 02800-3111
 ●ホームページ/URL http://www.city.furukawa.lg.jp